

投資の基礎講座 「株価と企業業績」

CFP®認定者
日本FP協会群馬支部副支部長

3月決算企業の前期の決算発表が本格化します。業績発表を受けて株価が大きく振れることもあり、多くの投資家が業績発表に注目しています。一方で、「株価と業績は関係ない」と言う人もいます。日々の値動きなど短期的な売買を中心に行っている人にとっては、企業業績よりも人気度や株価の動きのほうが重要であり、企業業績などのファンダメンタルは二の次となるかもしれません。しかし、多くの投資家は時々刻々変化する株価をいつも追いかけているわけには行きませんから、短期的な値動きよりも中長期的な動きに重きを置くことになるでしょう。そこでは企業業績は重要な要素になるはずですが、トヨタやキヤノンなどの株価はバブル時よりも遥かに上回っていて、業績の裏打ちがあることは間違いありません。

ただ、今の株価や企業業績を見ているからこそトヨタやキヤノンなどの株価が高いことに納得性があるのですが、残念ながら投資は将来の値上がり期待して行うのであり、将来の業績が上っていくのか下っていくのかは判らない、そこが投資の難しいところです。

一時的な要因やその時は将来業績が順調に伸びていくと思われて株価が上昇しても、期待が外れ、短期間で値下がりしてしまうものも多いのが現実です。長期的な成長を見出すことは容易ではありませんが、自分自身で将来の国内外の経済の見通しを考え、そこから成長が見込める業種や企業を見つけ出す。その企業に投資をして、自分の予想どおりに株価が上昇したら、それが投資の魅力ではないでしょうか。そのためには企業業績をみることは決して無駄ではないと思います。

先週の金融市場データ

スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成19年4月23日現在

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	17,628.30円	17,667.33円	17,371.97円	17,452.62円
TOPIX	1,725.60	1,760.71	1,706.93	1,710.07
東証1部単純平均	462.86円	464.27円	458.12円	458.12円
東証1部売買高	1,801,750千株	2,144,310千株	1,790,190千株	1,790,190千株
ニューヨークダウ平均	12,720.46ドル	12,961.98ドル	12,720.46ドル	12,961.98ドル
NASDAQ	2,518.33	2,526.39	2,505.35	2,526.39
10年国債利回り	1.695%	1.700%	1.670%	1.680%
債券先物中心限月	133.70円	133.90円	133.56円	133.70円
無担保コールO/N	0.511%	0.523%	0.500%	0.523%
円TIBOR 1ヶ月	0.61500%	0.61500%	0.61333%	0.61417%
円TIBOR 3ヶ月	0.65333%	0.65333%	0.65250%	0.65250%
ドル/円相場	119.26円	119.30円	117.93円	118.70円
ユーロ/円相場	161.96円	161.96円	160.22円	161.62円
1ユーロ=ドル	1.3554ドル	1.3613ドル	1.3539ドル	1.3613ドル
米国FFレート	5.3125%	5.3125%	5.1875%	5.2500%
米国10年国債利回り	4.76%	4.76%	4.65%	4.67%

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.35%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.35%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.35%

経済・物価情勢の展望(展望レポート)

日銀は4月27日に「経済・物価情勢の展望(2007年4月)」(展望レポート)で、日銀の2007-2008年の経済・物価の見通しを公表します。

この「経済・物価情勢の展望」は「展望レポート」とも呼ばれ、毎年4月と10月に公表されます。展望レポートでは、政策委員による実質GDP、国内企業物価指数、消費者物価指数(除く生鮮食品)の見通しを参考計表として掲載しています。

前回の展望レポートでは、2006年度の実質GDPは+2.3~+2.5%、消費者物価指数は+0.2~+0.3%、2007年度の実質GDPは+1.9~+2.4%、消費者物価指数は+0.4~+0.5%というのが大勢見通しでした。

このところの経済指標の動きから見ると、実質GDP、消費者物価とも下方修正される可能性があります。

展望レポートから次回の利上げ時期を探る動きが出てくると思います。

今週の株式相場見通し

先週の株式市場は、決算発表本格化を前に機関投資家の動きは鈍く、先物取引主導で薄商いの中、値動きの荒い展開となりました。

今週の株式相場は、先週のNYダウが史上最高値を更新し、週末も大幅高となったことから週初は大幅高となりそうです。しかし、為替相場の動きに変調が見られることや海外株価に高値警戒感も出てくるのが予想されることから、引き続き値動きの荒い展開が予想されます。

海外株式市場に比べ国内株式市場の出遅れ感が顕著になってきていることから、外人投資家が下値で買う動きが出るのが予想され、比較的下値は固いと思います。

決算発表が本格化し始めることから、業績状況で株価に明暗が出てくるものと思います。

今週の債券・為替相場見通し

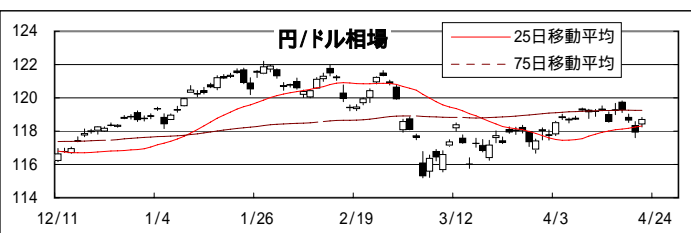
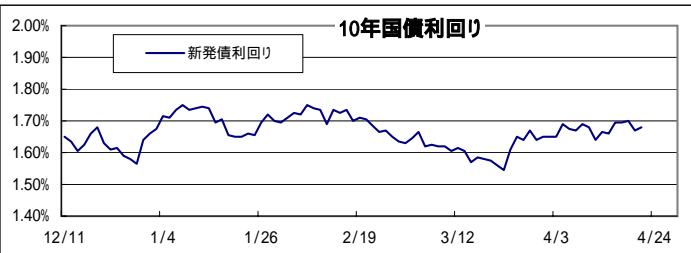
先週の債券相場は、株価の値動きに振られる展開となり、10年国債利回りが一時1.71%まで上昇する場面もありました。

今週の債券相場は、27日の展望レポートが注目されます。消費者物価の見通しがあまり下方修正されないとすると、早期の利上げ観測が強まり、利回りが上昇する可能性があります。10年国債利回りで1.67~1.72%程度で推移するものと思います。

先週の為替相場は米国の消費者物価や住宅着工件数が好調だったことから、米金利の利下げが遠のいたことや英国金利の引き上げの可能性が高まったことなどから円が独歩安となったあと、中国株の下落から世界連鎖安の懸念が広がり円が買い戻される値動きとなりました。

今週の為替相場は、ファンダメンタル面の落ち着きから比較的安定した値動きとなりそうです。

1ドル=118円20銭~119円00銭程度の推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。